

かごめかごめ 02

こんにちは、ナビゲーターの金子です。

先回の、かごめの歌のミステリー解明、の続きをお話させていただきます。一つの推察ですので気楽にお聞きください。

「かごのなかのとり」の、信長に閉じ込められているような家康よ、
「いついつでやる」いつ表舞台にでてくるの？
「よあけのぼんに」午前4時ごろの事件、本能寺の変をきっかけにして、
「つるとかめがすべった」明智光秀が天下を取った、

とここまでを先回、解明いたしました。

さて、一番の謎！の「うしろのしょうめん」の謎を解いてみましょう。

「うしろのしょうめん」

はい、ここで仏像の出番です。十一面観音という菩薩仏像は頭の上に、小さい菩薩が、ぐるっと一周する形で10個ついています。

そしてその真ん中に観音の理想の姿、阿弥陀如来が鎮座していて11観音です。

そのちょうど反対側の、つまり最も背中側の菩薩を『暴悪大笑面』といいます。

悪を暴いて大きく笑う面と書きます。略して『大笑面』とも呼びます。

世の中の悪を嘲り笑っている、本当に口を開け笑った像ですが、後ろにいかないと見えません。

「後ろの正面」とは、後ろにあるこの『大笑面』なのではないでしょうか。

明智光秀が統一したことを、後ろで笑っていた人、それが徳川家康だということです。信長をやばいと思っていて、天下泰平のためには成敗しないといけない。そのため、信長に侮辱されていた家来の明智光秀をそそのかした。

お前がそのまま天下を治めるには、準備不足であまりに無理がある。影武者をつかい、いったん死んだことにして、わたし（徳川家康のことですね）が統一を成し遂げよう。うまくやり遂げたらちゃんと後で面倒みるから、お互いに役を演じよう。

天下統一を成したあとは、一緒に江戸をつくろう！と、そんな話し合いがあったのではないのでしょうか。

本当の天下をとった家康が後ろで笑っている。

天下泰平のための信長殺しは、観音さんも許してくれるでしょ、『暴悪大笑面』のように、と。全体をつなげると、

怖いこと言うけど神さま、お守り下さい

信長様の支配下に甘んずる家康様はいつ台頭されるんでしょう。

なんて思っていました。本能寺の変で明智様が信長様を討ち、

一気に天下統一したみたいになりましたが

それを後ろで笑って見てたのは他のだれでもない家康様だったんですね。

かごめかごめの遊び自体、十一面観音の頭の上によく似ていませんか？一人を輪のなかにおいて、みなでグルグルまわり、歌い終わったところで後ろの人をあてるという遊びです。

この遊びは、仏像の十一面観音が好きな子供が考えた遊びだったけども、その歌詞に、世の中をよく知ってる誰かが秘密をこっそり忍ばせた、と。

家康の次の将軍は秀忠、そして三代将軍は家光です。

秀忠の「秀」、家光の「光」。将軍となる子と孫に明智光秀の一文字ずつを分配しています。

明智光秀のお墓の前には「国家安全」の石碑があります。真ん中の2文字、そして上、下の順番で漢字を読むと「家康が国の全て」と読めます。家康と光秀の結託がうかがえてビビりますが…

あくまで一説ですのでご容赦ください。

仏像で謎が解けた！か〜ごめか〜ごめの童謡歌でした。